

2022 年度 新入生合同研修 活動報告書



大阪医科薬科大学
Osaka Medical and Pharmaceutical University

2022 年 4 月 21 日（木）～4 月 22 日（金）

WEB 開催

新入生合同研修委員会

◆◇ 目 次 ◇◆◇

◆ ごあいさつ	1
◆ 新入生合同研修委員会委員一覧	2
◆ テーマ・目的	3
◆ プログラム	4
◆ 準備・実施スケジュール	5
◆ 新入生合同研修の様子	6
◆ 優秀マンダラート	7
◆ 新入生アンケート結果（概要）	10
◆ 教員アンケート結果（概要）	19
◆ 今後に向けて	25

ごあいさつ

大阪医科大学と大阪薬科大学は、2016年に法人合併、2021年に両大学が大学統合し、1年～6年まで段階的に実施される専門職連携教育[IPE:Interprofessional Education]が整備され、信頼関係を築くための高度な知識と技術を修得します。

専門職連携教育のスタートとなる3学部の新入生を対象とした新入生合同研修を、「良き医療人をめざして踏み出す第一歩のために」テーマに、2022年4月21日と22日の二日間で開催いたしました。企画および運営は新入生合同研修委員会を中心に行いました。今年度の新入生合同研修は、新型コロナウイルス感染予防のため、2021年度に引き続きオンライン開催となり、新入生約530人、教職員約100人がオンライン上に集いました。

研修1日目は、学長、各学部長からの新入生へ向けたメッセージを皮切りに、卒業生・在学生からのビデオメッセージ動画の上映を行いました。そして、午後からはメインイベントでもあるグループ討議を行いました。グループ討議では、新入生を5～6人のグループに振り分け、「良き医療人」をテーマにマンガラートの作成いたしました。司会やチューター教員の先生方の円滑な進行により、リモートの距離感を感じさせないほどに、活発な意見交換が行われました。

研修2日目の午前、グループ討議の成果物上位5グループの発表を行いました。その頃には学生の緊張感も和らいで、活発な意見交換が行われました。午後からは「薬物問題講習」をテーマに、日本薬物問題研究所 理事の瀬戸先生からご講演頂き、その後「救急蘇生心肺蘇生・AEDの使用に関する講演」をテーマに、NPO 法人大阪ライフサポート協会理事長の西本先生からご講演を頂きました。2日間通じて、多くの学生が楽しんで参加し、他学部の学生と知り合えるきっかけにもなりました。

本研修の運営にご協力頂きました教職員の皆様には深く感謝申し上げます。

新入生合同研修委員会

新入生合同研修委員会 委員一覧

所属/役職	氏名	備考
医学学生生活支援センター長	金沢 徹文	規程第2条第1項第1号
医学教育センター長	中野 隆史	規程第2条第1項第2号
薬学学生委員長	浦田 秀仁	規程第2条第1項第3号
薬学教務委員長	永井 純也	規程第2条第1項第4号
元看護学学生生活支援センター長	佐々木 綾子	規程第2条第1項第5号
看護学教育センター長	鈴木 久美	規程第2条第1項第6号
化学教室 講師	境 晶子	規程第2条第1項第7号
保健管理室 講師	澤村 律子	規程第2条第1項第7号
医学教育センター 講師（准）	駒澤 伸泰	規程第2条第1項第7号
薬学部 教授	岩永 一範	規程第2条第1項第8号
薬学部 教授	芝野 真喜雄	規程第2条第1項第8号
薬学部 准教授	角山 香織	規程第2条第1項第8号
看護学部 准教授	カルデナス 暁東	規程第2条第1項第9号
看護学部 講師	佐野 かおり	規程第2条第1項第9号
看護学部 講師	山埜 ふみ恵	規程第2条第1項第9号
医学事務課 課長	鈴木 伸一	規程第2条第1項第10号
薬学部学生課 課長	増家 博	規程第2条第1項第10号
看護学事務課 課長	川端 由夏	規程第2条第1項第10号

テーマ・目的

テーマ：

「良き医療人をめざして踏み出す第一歩のために」

目的：

医学部・薬学部・看護学部の新入生が協働し「良き医療人となるために必要なこと」をテーマにオンライングループ討議（Zoom）を行い、医療人マインドの醸成、プロフェッショナリズムの基礎を構築するための多職種連携について考えるきっかけとする。

プログラム

2022年4月21日（木） 1日目		
時刻	内容	内容・備考
10:00	◆Zoomへのアクセス開始	
10:30	◆開会式	学長(3分)・学部長(3分×3人)のご挨拶(計12分)
10:45		オリエンテーション
11:00	◆在学生・卒業生からのメッセージ	医学部関係×15分
12:00		薬学部関係×15分 看護学部関係×15分
12:00	◆昼休憩(1時間)	
13:00		
13:00	◆グループ別討論	●全体の流れ ・自己紹介(事前に作成したPowerPointを用いて) 15分 ・個人ワーク(マンダラートの作成: 中心9マスの作成) 30分 ・チームビルディング(書記、司会等の役割分担) 10分 ・グループワーク(グループで1つのマンダラートを作成) 110分
15:45		
15:45	◆投票に関する説明	
16:00	◆1日目終了挨拶、2日目案内	
17:00	◆投票(チューターのみ)	※学生は各グループのマンダラートの閲覧のみ可
19:00		対象グループのチューター・学生には事前に連絡(順位は伝えない)
2022年4月22日（金） 2日目		
時刻	内容	内容・備考
9:30	◆Zoomへのアクセス開始	
10:00	◆本日のスケジュール確認	
10:10	◆投票上位グループの発表	チューターによる投票結果上位5グループによる発表を行う。
12:00		
12:00	昼休憩(1時間)	
13:00		
13:00	◆講演会①(1時間)	薬物講演会(日本薬物問題研究所・瀬戸先生による講演)
14:00		
14:00	◆休憩(15分)	
14:15		
14:15	◆講演会②(1時間)	救急蘇生(大阪ライフサポート協会・西本先生による講演)
15:15		
15:15	◆アンケート実施	
15:45		
15:45	◆閉会式	
16:00		
16:00	◆解散	

準備・実施スケジュール

	内容	12月	1月	2月	3月	4月
	委員会開催 スケジュール案	●	●	●	●	●
委員会審議	合同研修プログラムの企画・設計	→				
委員会審議	チューター教員の選出、自己紹介の作成依頼 内容の確認		→			
委員会審議	新入生・チューター向け説明内容の確定			→		
委員会審議	合同研修プログラム 最終確認				→	
委員会・事務	チューター教員 説明会				→ 3/16zoom (3/22-4/20 youtube)	
委員会・事務	新入生 通信テスト					→ 4/16 (10-12時)
事務	講演等の調整	→		→ 3/31締め切り		
事務	グループワーク関係データ作成	→		→		
事務	チューター教員の選出依頼・自己紹介データの取り纏め		→ 自己紹介データ 2/28締め切り	→ 一元化		
事務	新入生・チューター向け説明資料作成 (配布用簡易オリ用スライド資料)		→	→ 3/28完成・印刷		4/1紙で配布・4/12頃チューターにもメール配信
	新入生・チューター向け説明資料作成 (新入生オリ用スライド資料)		→	→ 3/29完成		4/1以降各学部オリ時説明
事務	新入学生グループの割り振り・自己紹介用PPフォーマット・チューター一覧・チューター自己紹介スライド他				→	4月12日頃学生配信 (ユニバ) チューター配信 (メール)
全員	本番 (2022年4月21日・22日)					★

配信会場の様子



【第1位】優秀マンガラート（グループ：35 担当チューター：薬学部 角山香織先生）

対応力を身につける	優柔不断にならない	冷静でいる	常識を持つ	客観的になる	医療人として自覚	体系的に学ぶ	失敗を恐れない	応用力を身につける
いろいろな情報を持つ	判断力	偏見を持たない	礼儀正しくする	倫理性	人の気持ちを考える	興味を持つ	学ぶ姿勢	思い立ったらすぐに行動する
根拠になる自信をつける	臨機応変	客観的な視点を持つ	人を傷つけない	視野を広げる	嘘をつかない	質問をする	初心を忘れない	謙虚で続ける
よい態度で接する	気持ちに寄り添う	患者背景を把握する	判断力	倫理性	学ぶ姿勢	洞察力を持つ	積極的になる	アウトプット力
責任感をもつ	患者に対する思いやり	言葉遣い	患者に対する思いやり	よき医療人	知識	いろいろなことに興味を持つ	知識	いろんな世代と関わる
相手の気持ちを尊重する	同じ目線で話す	笑顔をわすれない	忍耐力	協調性	コミュニケーション力	新聞やニュースを見る	勉強する	教養をつける
ネガティブ思考にならない	集中力をつける	言い訳をしない	多職種との連携	集団的意識を持つ	相手を知る	人前ではきはき話す	人と関わる	目を見て話す
体力をつける	忍耐力	向上心を持つ	仲良くなる	協調性	感謝を言葉にする	挨拶をする	コミュニケーション力	聞き上手になる
小さな目標を持つ	息抜きをする	寛容になる	周りを見る	互いを尊重する	優しい言葉遣い	相手を褒める	清潔感をつける	笑顔でいる

【第2位】優秀マンガラート（グループ：50 担当チューター：薬学部 田中早織先生）

相手を褒める	聞き上手になる	部活に入る	相手の気持ちを考える	身近な人から気に掛ける	感謝する	的確な医療知識を持つ	責任感を持つ	誠実さ
語彙力を高める	コミュニケーション能力	挨拶する	共感する	思いやり	言葉で伝える	約束を守る	信頼	清潔感
人前に積極的に立つ	プレゼンする	人と話す	周りをよく見る	自分がされてうれしいことを人にする	謙虚な姿勢を持つ	相手を信頼する	礼儀	患者中心
体調管理	ストレス発散	ポジティブ思考	コミュニケーション能力	思いやり	信頼	考える癖をつける	疑問の解消	人の意見を聞く
メリハリをつける	笑顔	自分へのご褒美を用意する	笑顔	良き医療人	問題解決能力	視野を広げる	問題解決能力	知識を増やす
相談する	笑顔の習慣をつける	明るい人と積極的に関わる	臨機応変	協調性	プライバシー保護	経験を積む	論理的思考	新しい考えを積極的に考える
冷静	広い視野を持つ	知識を増やす	コミュニケーション	意見を押し付けない	みんなで考える機会を大切にする	パソコン知識を持つ	油断しない	SNSに上げない
予想外のパターンの想定	臨機応変	判断力	友達を作る	協調性	相手の立場に立つ	病院外で患者さんの話をしない	プライバシー保護	講演会などの参加
深呼吸	切り替えを早くする	自分で考える癖をつける	周りに目を配る	人に対してポジティブになる	人の話を聞く	パスワード管理	細心の注意を払う	いろんなところにメモしない

【第3位】優秀マンガラート（グループ：43 担当チューター：薬学部 佐藤卓史先生）

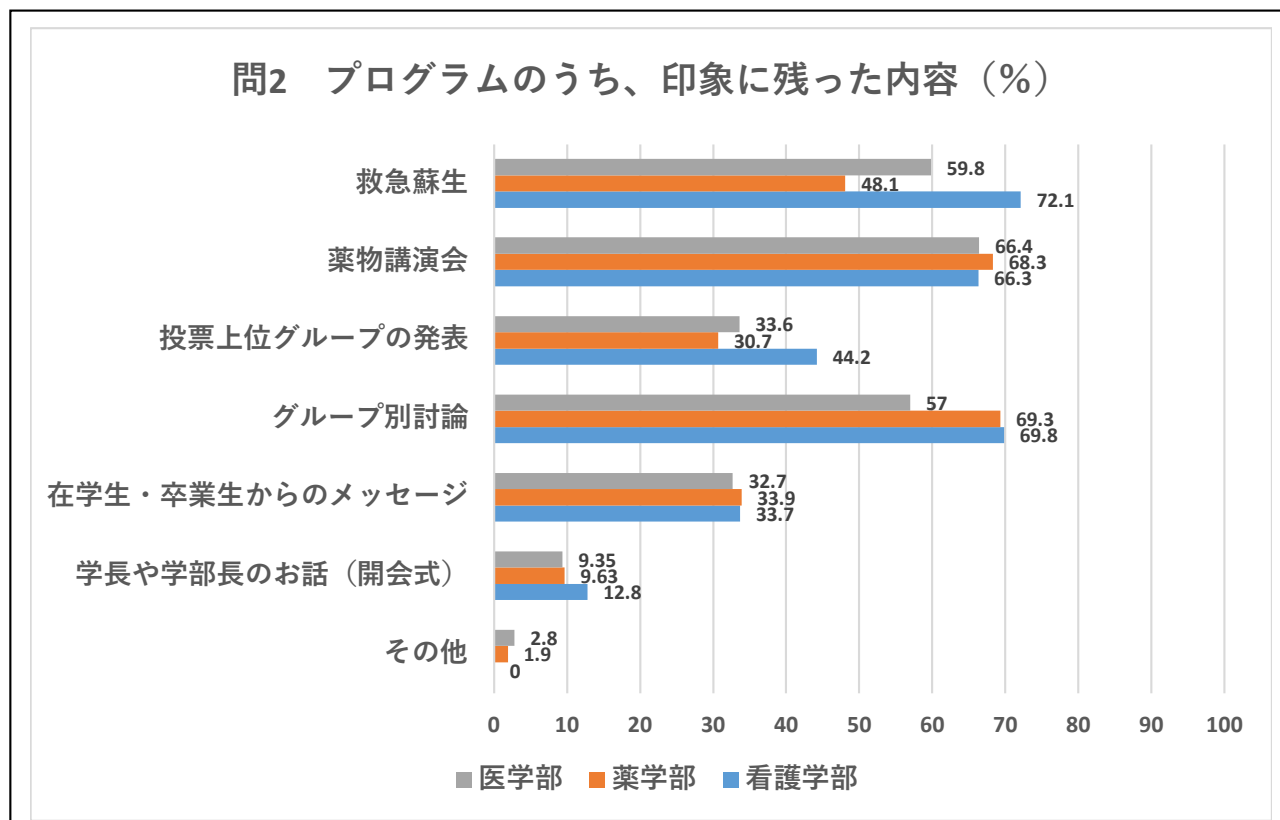
通学中 ダッシュ	自己管理をする	ポジティブ思考	テーマパークで接客を学ぶ	元気な挨拶を心がける	気配りをする	聞き上手	観察力を養う	相手に共感する
笑顔を欠かさない	パワフルさ	退職するまで続ける	友達の誕生日を祝う	おもてなし	スマイルをお届け(べこ)	友達の相談に乗る	心の壁を壊す力	相手の目を見て会話する
筋トレ	スポーツ大会にガチで取り組む	よく食べる	後輩に優しくする	常に相手への思いやり	相手の好きなものを把握する	自己をアピールする	多種多様な教養を身につける	話し上手
語学力をつける	卒業後も勉強を続ける	医療に限らず幅広く学ぶ	パワフルさ	おもてなし	心の壁を壊す力	向上心を持つ	探究心を持つ	問題解決力を持つ
謙虚さを持つ	知識	1つ1つの授業を大切にすること	知識	良き医療人	諦めない心	1つのことを続ける	諦めない心	行き詰まったときに初心に戻る
ニュースを毎日見る	互いに教え合う	様々な分野を関連付けて学ぶ	判断力	協カプレー	ユーモア	柔軟な思考を身につける	目標をしっかりと持つ	限界突破！！
自信を持つ	様々なことに挑戦をする	学生時代の臨床実習を通して養う	協調性を持つ	報告・連絡・相談を徹底する	相手の意見を尊重する	お笑い番組を定期的に見る	ダジャレのレパートリーを増やす	何でも全力！！
正確で素早い思考力養う	判断力	広い視野を持つ	自分の経験を相手と共有する	協カプレー	相手のことを信頼する	人と沢山会話する	ユーモア	自分をさらけ出す
リスクを恐れない	責任を持って判断する	情報を整理する	誰とでも仲良くする	仲間を頼る	お互いを知る	声に抑揚をつける	常に笑いを意識する	M1に出場する

新入生アンケート結果（概要）

1. あなたの学部を教えてください。

	学生数	回答数	回答率
医学部	117	107	91.5
薬学部	333	322	96.7
看護学部	89	86	96.6

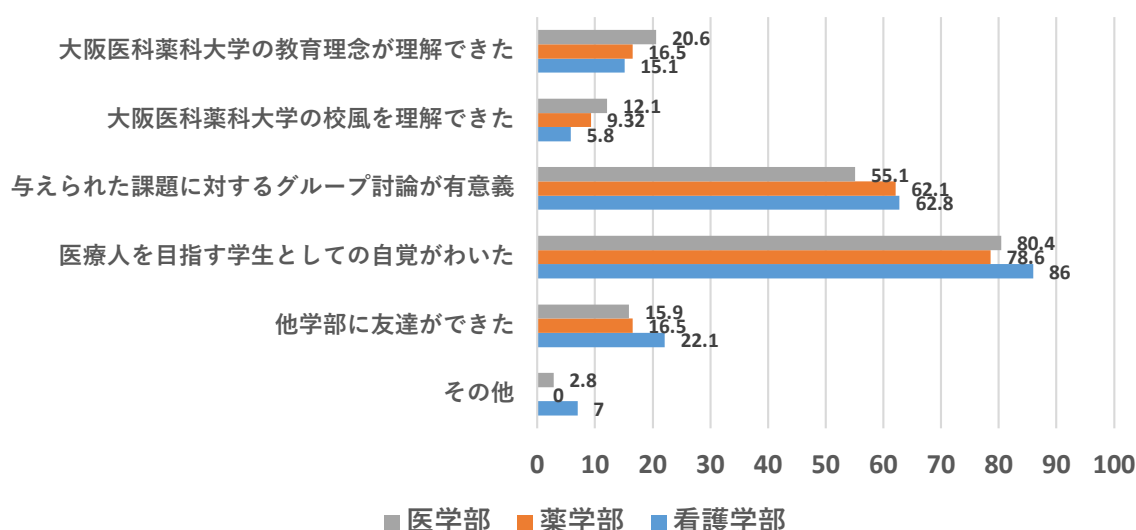
2. プログラムのうち、印象に残った内容は何ですか？（複数回答可能）



その他の内容	
医学部	1) 街中で人が倒れた時、すぐに駆け寄れるようにしたいです。 2) なにもしなかったら助からない、なにもしないよりやった方がいい、この言葉で少し勇気ができました。
薬学部	1) 共感することが多く、良い情報交換になりました。 2) 麻薬の怖さが理解できた。 3) 佐々木さんの司会 4) “色々な話を聞くことができたから。 5) 動画の薬物依存の人がとても印象強かったから。 6) 良き医療人としての心構えなどを知れて良かったです。
看護学部	1) もし自分の目の前で起きた時にうまく対処できるかわからないが、何もしないと命は助からない。と学んだ 2) 精神依存により五回も六回もわかっているのに再び始めてしまうという現実が知れてよかったです。 3) 薬物の怖さと、心肺蘇生の大切さがわかりました。

3. プログラムを受講して良かったことは何ですか？（複数選択可）

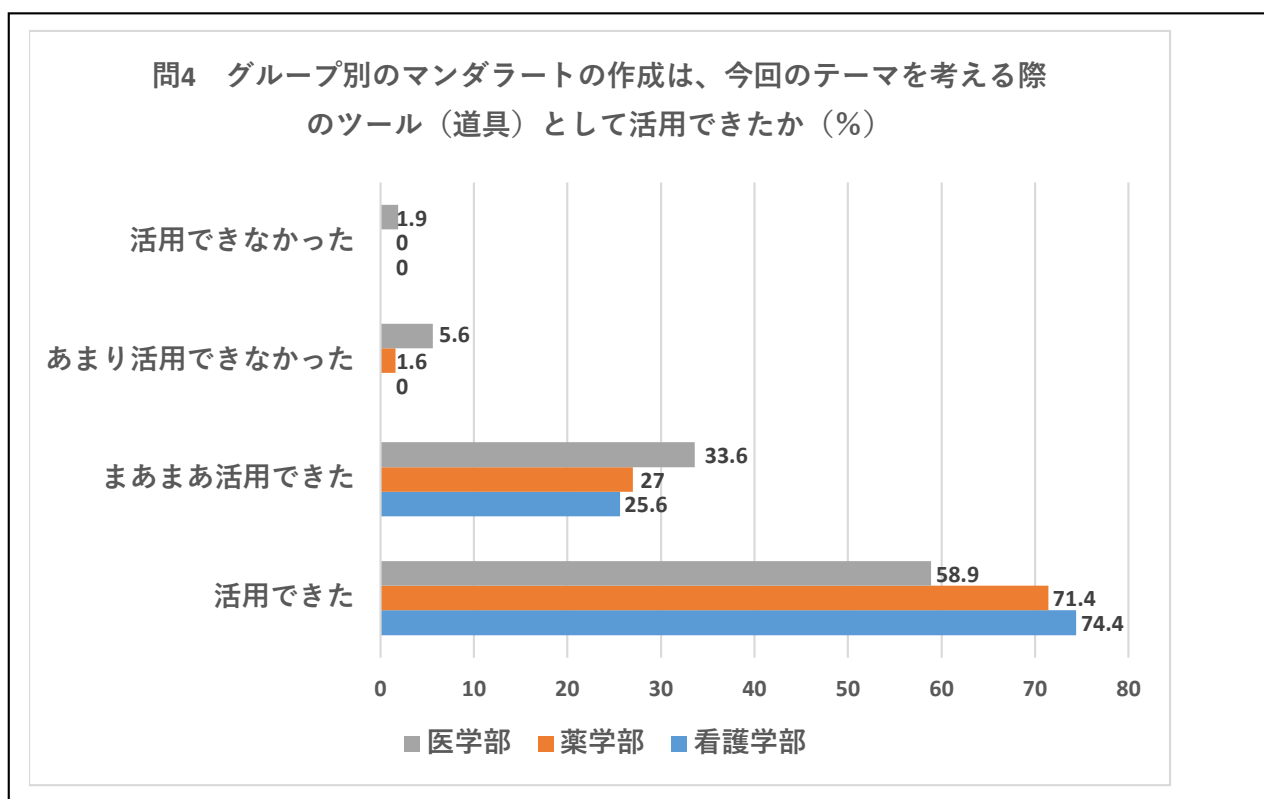
問3 プログラムを受講して良かったこと（％）



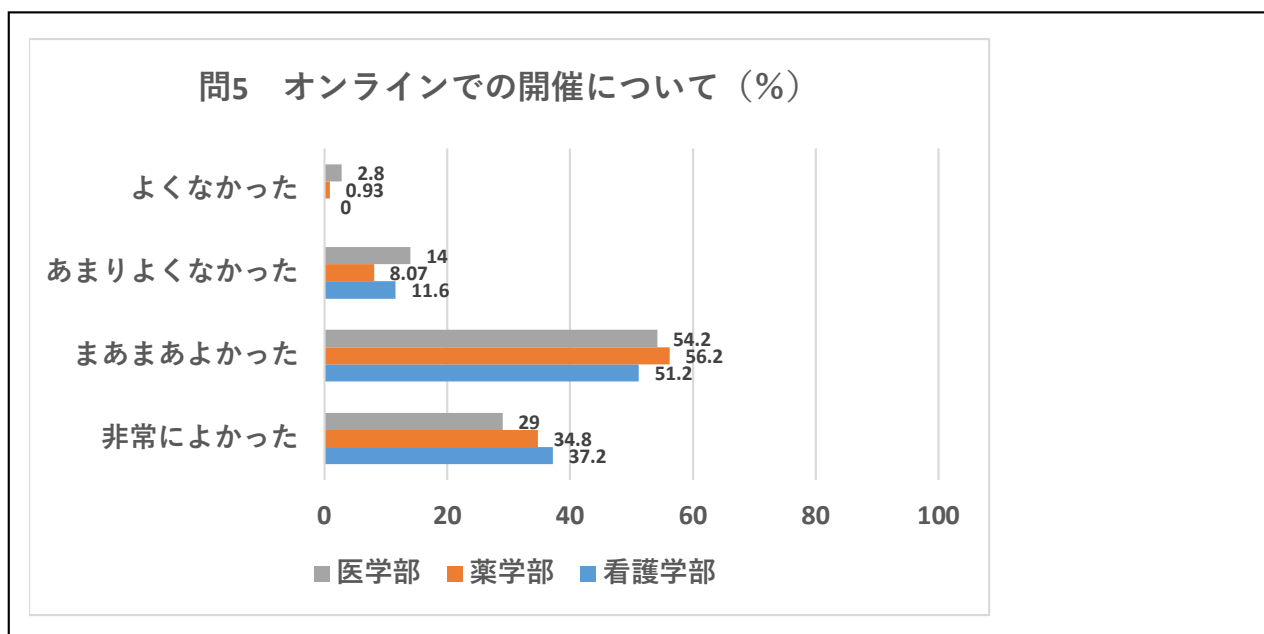
その他の内容

医学部	1) 大阪医科薬科大学の卒業生のお話を、3 学部すべての方からお聞きできたこと。 2) 以前から興味があった違法薬物についての話を聞くことができたこと。 3) 司会という役職を通して、チームを引っ張っていくリーダーとしての体験ができた。 4) 様々な意見を出し合っていると自分だけでは思いつかない意見がたくさん出てきて学びが深まりました。 5) 薬物乱用、心肺蘇生についての興味深い話が聞け、とても勉強になった。 6) 医療関係者が身近にいないため、医療に関する話を聞くことができなかったものの内容も新鮮でした。 7) 麻薬や心肺蘇生などこれからの自分に必須の知識が得られた。
薬学部	1) 普段の学校生活では触れない知識に触れる機会だった。 2) 麻薬捜査官の話を聞くことができた。 3) 自分になるべき医療人の想像ができた。 4) 他学部ならではの意見を知れた。 5) 新しい発見があったし意識も増したから。 6) 麻薬取締官に対する興味が湧いた。 7) 医療人マインド・プロフェッショナリズム・多職種連携。 8) 他学部の人と意見交換できて良かったです。 9) 先輩方や卒業生の話が聞けたこと。 10) 麻薬取締官や公務員、MR、製薬会社などについて知れた 11) 卒業生の話が聞けたこと。
看護学部	1) 先輩方の多様な活躍の姿を見ることができた。 2) 救急蘇生の昔から疑問に思ってたことを解決できたこと。 3) 上位5グループ発表をしてもらったおかげでまだまだ違う観点があるんだと実感できたことはすごくよかった。 4) 他学部で友達が全然いなかったにのでこの機会を通じて友達を作ることができ、とてもうれしかったです。 5) 薬物問題や救命蘇生について詳しく知ることができたこと。 6) 友達、とまでは親密になれなかったが、学部を超えて同じグループの人らと話をすることができて楽しかった。

4. グループ別のマンダラートの作成は、今回のテーマを考える際のツール（道具）として活用できましたか



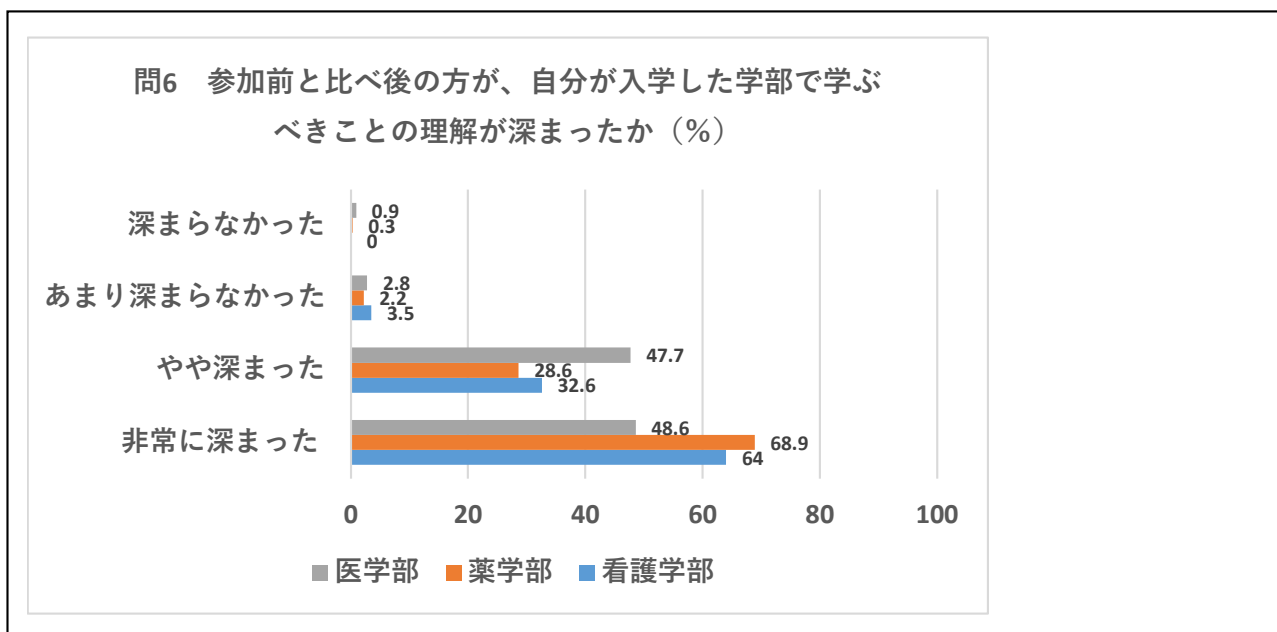
5. オンラインでの開催についてお聞きます。



選択理由（一部）

	学部	理由
よかったと思う理由	医学部	1) オンラインでの開催でありながらも内容が充実していた。 2) ほかのグループのマンダラートの発表を聞くのが楽しかったです。自分のグループでは思いつかなかったことを発見できました。 特に三位のグループは印象的です。 3) オンラインでの開催なので、ディスカッションがうまくできるか不安だったが、意外と話が弾んでよかった。 4) 現在のコロナ禍においてオンライン上での討論は、マスクをせずに行うことが可能で他者の表情を確認しながら進めることができた点で良かったと思う。 5) 通常時は、お互いにマスクをしているので顔がよくわからないが、オンラインではみんなの顔が見えるので、顔と名前を一致させて覚えることができると思ったから。
	薬学部	1) zoom だとマスクがいらないのでみんなの表情がよく見えてよかった。 2) 移動する手間がなく、便利でとてもよかった。 3) コロナ禍であって、集まって開催するのは難しく、マンダラートなど必要なものは揃っていたから。 4) 案外対面と変わらない空気感で話すことができた。 5) これから更にオンラインで開催されることが多いと思うので、この機会に体験できてよかったから。
	看護学部	1) 良き医療人というテーマでマンダラートを作成する際、他学部の方の意見を聞くことができ、別の視点からの考え方を知ることができたため。 2) オンライン上ではあったけれど、回線の問題もなくスムーズに研修を受けることができたから。また、コロナの心配をせずに自宅安心して研修を受けることができたから。 3) 良き医療人に必要な要素、そのために何をすればよいかを他者と意見交換することで、具体的な目標を見つけることができたから。対面だとマスクだけど、オンラインでは表情が見られて安心して交流できたから。 4) 以前目の前で人が倒れていて、酔っ払いだったら怖いなと思い、「大丈夫ですか」さえ言えなかった苦い経験があったので、今回 AED の使い方を含めお話を聞くことができ、振り返って考えることができました。
課題となる理由	医学部	1) どの時間も実りある時間であったと思う。 懸念点は、マンダラートに直接書き込めるのは都合上書記のみという点であった。 また、グループ討論前に雑談などアイスブレイクがあれば議論がもっと活発になったと思う。 2) やっぱり対面でみんなと会ってやりたかった
	薬学部	1) ネット上での書記の役割はまだ慣れていないこともありますが、対面よりも大変で疲れました。 2) 有意義だったが、欲を言えばコロナ前のように対面での合宿スタイルでやりたかった。 3) グループワークでせっかく仲良くなれたのに最後強制終了になってしまったのがとても悲しかったです。
	看護学部	1) 他学部の学生と意見交流ができたことはよかったですが、グループワークをするときはやはり直接会って行ったほうが意見も出しやすくより有意義なものになるのではないかと思います。 2) カメラでの会話は抵抗があったのでできれば直接の対面で行いたかったから。 また回線が重かったため音声や、映像が途切れ途切れであまり内容が理解できなかった。 3) 実際に合宿をして討論とかしてみたかった気持ちもあります。

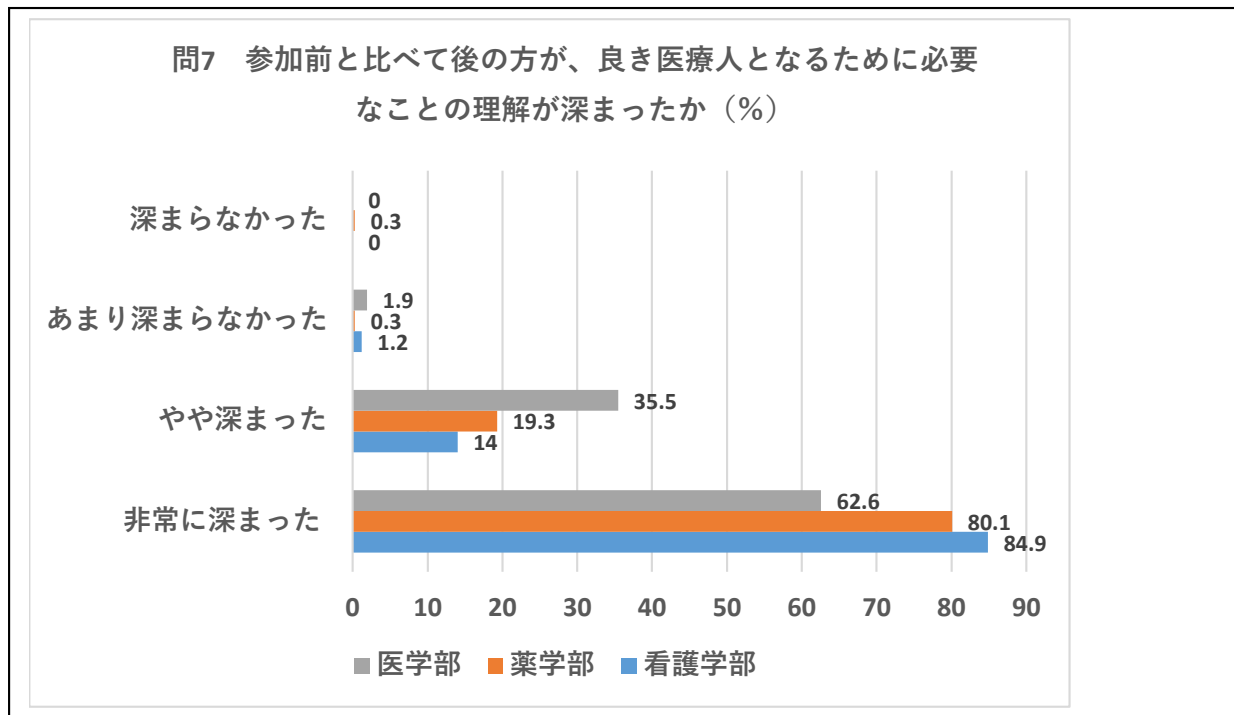
6. 参加前と比べ後の方が、自分が入学した学部で学ぶべきことの理解が深まりましたか。



選択理由 (一部)

	学部	理由
よかったと思う理由	医学部	1) 目指すべき医師像がはっきりし、今自分ができることが少し明確になったから。 2) 3学部の卒業生が講演され、全員や各学部に向けた話を聞いたことが、共通点や相違点を見出す貴重な機会になったと思う。マンダラート作成時にも、各学部で視点が少しずつ違うなと気づくことがあった。 3) 講義を聞いて、医師の責任や、心停止してから助かるまでの時間などを学び、患者さんを助けるために、どんなことを勉強すればいいのかわかったから。 4) 先輩方の話を聞いてこれからの方向性を理解することができた。 5) マンダラート作りの時に、言語化することで、より目標が明確になった。
	薬学部	1) 改めて、薬の専門家になれるようにこの6年間しっかりと学びたいと思いました。 2) 薬物講演会で少し麻薬取締官という職業に興味があった 3) 在学生・卒業生のメッセージで薬学部を卒業し、実際に働かれている方の話を聞くことができたから。 4) 同じ学部の人だけではなく、他学部の人たちと合同で討論するなかで改めて自分の学部の役割を認識できました 5) 卒業後の進路を考えるきっかけになった。
	看護学部	1) 他学部の考え方に触れ、自分の学部についても理解できた。 2) 看護学部の卒業生の方々の話を聞いて、看護師だけでなく保健師や助産師のことも知ることができて良かったです。 3) 多職種連携をしたいと、単純な考えをしていましたが、今回のグループワークで、具体的に何をすべきなのかははっきりとわかったし、他学部の医療に対する考え方を知ることができたからです。
課題となる理由	医学部	特になし
	薬学部	授業と今回の研修のつながりが見えなかった。
	看護学部	特になし

7. 参加前と比べて後の方が、良き医療人となるために必要なことの理解が深まりましたか

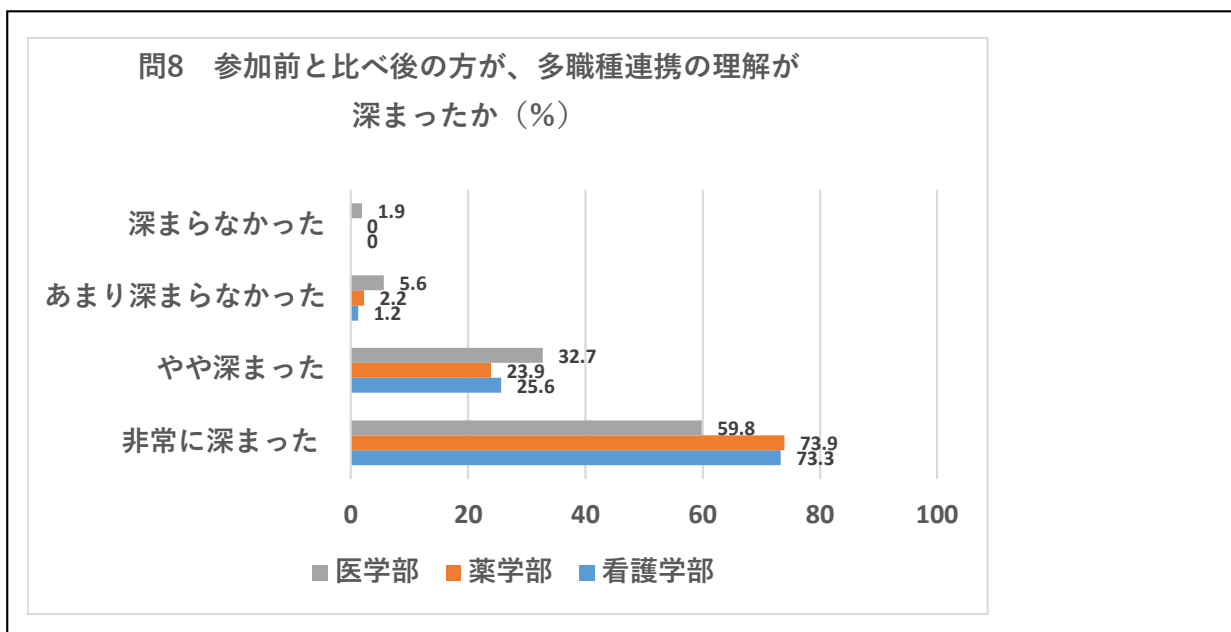


選択理由（一部）

	学部	理由
よかった と思う理 由	医学部	1) マンダラートを自分で作成するだけでは気づかない視点を、グループ討論中や発表会で得ることができたから。また、専門の先生方がその場でコメントいただけたことで、より深めることができた。 2) 内容が充実しており、良き医療人について多角的に考えることができた。 3) 薬物講演会は、とても有意義な時間だった。今までは、薬物に手を出さなければ薬物乱用には関わらなくていいだろうと思っていたが、医療者として薬物を厳重に取り扱わなければいけない立場になることが自覚できた。 4) マンダラートという形あるものにすることで、自分が今後何をすればいいのか明確にすることができたから。 5) 現場の先生のアドバイスにリアリティがあったため、大変参考になった。 6) 今までは自身の学部の人としか関わりがなかったので、今回薬学部と看護学部の方たちと話し合うことによって、他の職種の方たちがどのような考えをしているのかわかったので、とても有意義なものとなった。
	薬学部	1) グループ討論を通じて、他人の考える医療人についても知ることができたから。 2) 医療従事者としてどうあるべきか、グループ全員で話し合えたことで、視野が広まった気がするから。 3) 上位のグループのマンダラートに書いてあった具体的なよき医療人としてやるべきことが明確になった。 4) よき医療人になるために、何が必要で具体的に何をすべきか話し合いを通して理解できたから。 5) グループ別の討論を聞いてひとりでは思いつかないような様々な観点から学ぶことができたからです。
	看護学部	1) 他学部の方とマンダラートを作成したことや、上位5つのグループのマンダラートを知ることができ、良き医療人を目指すために、必要なことをこの二日間で、多く学べたので学んだことを心に留めて勉学に励んでいきたい。 2) 「分からないことは分からないと言う」というのはとても大切だと

		思った。医療職は患者さんの命を預かる仕事で重大な事故に繋がる危険性がある、他人に助けを求めることができる人になろうと思った。 3) 討論でいろいろな方の意見を聞くことができて、医療人としての自覚がわいた
--	--	---

8. 参加前と比べ後の方が、多職種連携の理解が深まりましたか。



選択理由（一部）

よかった理由	医学部	1) 他学部の学生との議論を通して共通した認識を持っていることが分かり、同じ目標に向かっていくことが感じられた。 2) 他の学部の卒業生の方の講演が印象的です。 3) 医、薬、看護学部みんなで意見を出し合ったから
	薬学部	1) 特にマンダラートでの討論でお互いの学部からの視点での意見を共有できたからです。 2) 良き医療人には多職種連携は欠かせないと感じました。 3) 多職種連携は社会にでて実際に働いてからも、必要なことだということを学んだからです。 4) 実際に違う学部の人と話すことで、その人が専門とする職業について知ることができたりしたから。 5) 考え方の違う人が集まったので色々な話を聴けて、面白かった。

	看護学部	1) 学部によって、着目していた点などが異なっており、多職種連携について様々な視点から考えることができ、多職種連携とはどのようなことか今まで以上に理解できました。 2) ディスカッションを通して各学部の視点が異なり、これが多職種連携なのかと実感することができたから。 3) 医療は一人で行うものではないとこれまで学んできましたが、今回初めて他学部の学生と話し合う機会を得ることができ、それぞれの学部ではどのように考えているのかを実際に自分の耳で目で見ることができたからです。 4) 授業で行う多職種連携論では講義をきくことでほかの職種がどのようなことをしているのかは知れるけど、今回ののは実際に他学部の人と話す機会があったから。 5) 私は初めは看護師の視点でマンガラートを埋めていたが、医師・薬剤師の視点からみたよき医療人に必要なことを知ることができ、参加前よりも視野が広がったため。 6) 医学部、薬学部、看護学部が合同で話し合う機会、様々な意見を聞き、初めてほかの学部の人と協力したことは、多種職種連携への練習になったと思うから
課題となる理由	医学部	多職種連携の話題があまり出なかった
	薬学部	多職種連携に対してはあまりお話しされていなかったように感じるから。
	看護学部	現場での多職種連携の実例を頂ければ良かったと思います。

9. 3 学部合同で行ったことについての感想や、その他意見があればお願いします。

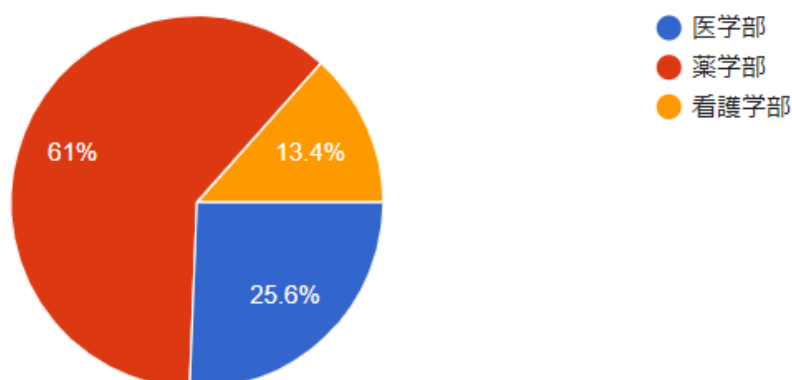
学部	意見
医学部	1) コロナが落ち着いたら実際に 3 学部で集まって何かしたいです。 2) 直接会って行いたかった。 3) 普段の授業では体験できないようなことがあり、とても勉強になった。 4) 特に薬学部はキャンパスも離れていてなかなか交流の機会が取れないので良かったと思う。
薬学部	1) 他学部の人と交流したことで、新たなものの見方に気づけたので参加して本当に良かった。 2) 他学部の仲間と討論して、自分の考えにはなかった新たな発見などが出来てすごく良かったです。医療人としての意識と自覚がより一層出てきました。 3) 普段関わることの無い他学部の人と関わって、色々な意見が聞けて面白かった。このような機会が増えれば良いなと思った。 4) 自分が将来医療従事者として働いているという自覚がより深まりました。この二日間がないのとあるのとでは全く違うんじゃないかと思うぐらい有意義な時間になりました。 5) 私が大阪医科薬科大学を選んだ大きな理由が、3 学部合同でのカリキュラムがあり早いうちから多職種連携について学ぶことが出来ると考えたからなので、とても有意義な 2 日間でした。ありがとうございました。 (今後の課題) 6) 一日目にせっかく友達ができただのに、二日目には特にしゃべることもなかったのは退屈でした 7) 次は出来ればオンラインではなく対面でやりたいです。 8) (アンケートについて) 全角文字が 2 文字としてカウントされてエラーが出るので全然感想が書けません。文字制限増やしてほしいです。 9) 他学部の人たちと関わったのはよかったけど、結局今回限りになってしまうのが残念だった。そのグループで自由時間などが多少はあってもよかったと思った。

看護学部	1) 各学部の多くの興味深い意見、考え、質問が非常に勉強になり、楽しかった。次の多職種連携の授業も楽しみです。 2) 他の学部の人たちとちゃんと話し合いができるのか心配だったけれどしっかりと意見も言い合えたし、何よりも交流ができたので良かった。 3) 薬学部の生徒たちとはキャンパスが離れており中々交流がなかったため、こうしてオンライン上ではありますが交流することが出来て大変うれしく思います。 4) オンラインという現代的な良いツールがあったことでコロナ禍でもこのような貴重な機会を設けていただけたことに感謝したいです。これからも多職種連携について沢山学び、実践でいかせるようにしていきたいです。 5) マンダラートに加え、薬物や AED の講義を聞き、将来医療人としての生きていく自覚が高まった。
------	--

教員アンケート集計結果

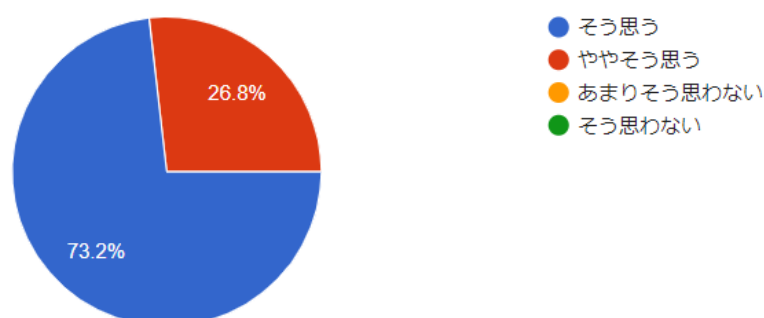
1. あなたの所属学部を教えてください。

82 件の回答



2. 学生は、グループ別のマングラートの作成を、今回のテーマを考える際のツール（道具）として活用できていたと思いますか。

82 件の回答



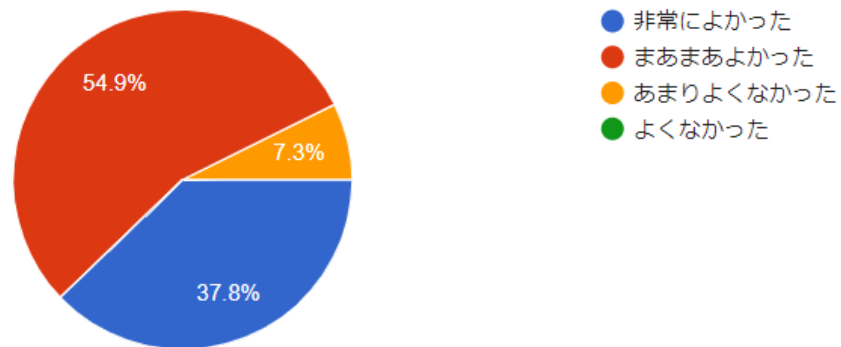
※それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。

（一部）

活用できたと思う理由	1) 医療系大学の学生としての心構え、今後自分の行動について考える機会となりました 2) 非常に真剣に多面的に物事考えられていたと強く感じました。意見もすべての学生から出されており良い企画・やり方だったと思います。 3) プロダクト作成時に「実際に日常で使えるよね」といった意見が出ていたため。 4) 学生達の表情が生き生きしていたから 5) 1日目の個人ワークやグループワークを通して、それなりに意見交換をし、2日目に他のグループの発表を通して、多様な意見を知ることができたので、テーマを考える上でのツールとしては機能したと思います。
課題となる理由	1) マングラートという枠にはめるとほとんど同じような意見に固まってしまう。

3. オンラインでの開催についてお聞きします。

82 件の回答



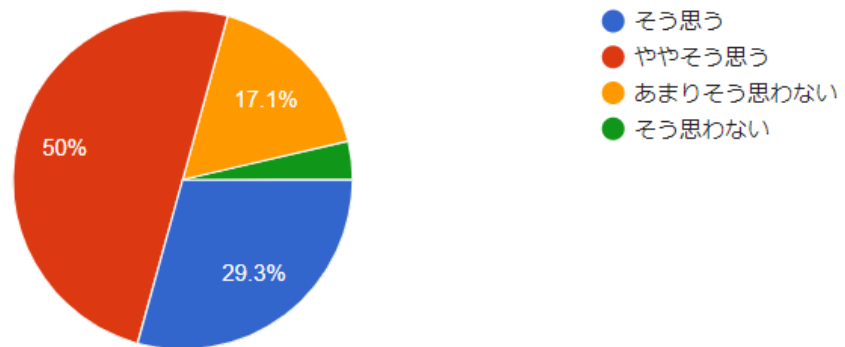
※それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。

(一部)

よかった と思う理由	1) 一長一短はあるが、現状ではベストと思える。 2) コロナも3年目で、学生も教員もオンラインになれていた。600人が2日間まとまり研修できたのはオンラインならではの思う。 3) 対面がベストとは思いますが、現時点ではまだ対面に拒絶感を持つ学生がいると思われるから。 4) 対面よりもオンラインの方が共同作業がしやすい。今の学生にとっては、オンラインだからといって対面と比べて意思疎通しにくいと感じる様子はない感触。むしろ、社会状況を踏まえるとういうものは使いこなせて当たり前で、それを応用して新しい方法や価値を作り出せる人が社会で活躍していくように思います。 5) コスト面では大変よかったと思います。マスクを外せるのもよかったです。
課題となる理由	1) やはり対面のほうが、緊張感や仲間意識が生まれると思います 2) 最初や、どのタイミングでジャムボードや成果物、このアンケートが配布されるのかよくわからなかった。 3) 通信障害や設定上の問題があった場合など運用面に不安が残った。 4) 一点困ったこととして、ブレイクアウトルームに入った後にマンダラートの URL がわからず他の教員に教えてもらい対応したということがありました。次年度は運営側でブレイクアウトルームの chat に URL を貼り付けるか、事前に教員に URL 資料を配信しておき、ブレイクアウトルームに入ったら各自で chat に URL を入力するよう教示してもらえるとわかりやすいと思います。

4. 学生は、それぞれが入学した学部で学ぶべきことを理解できたと思いますか。

82 件の回答



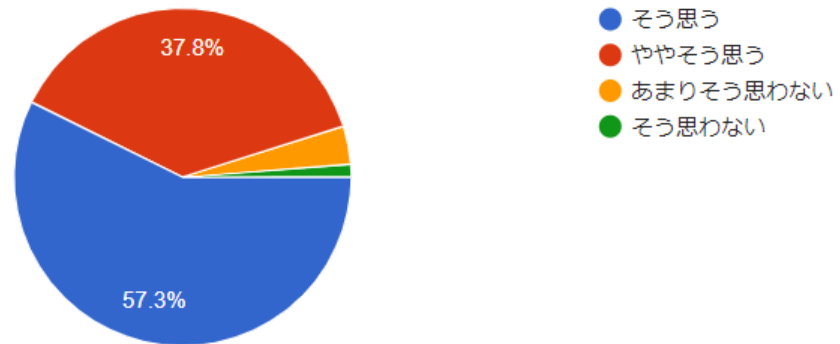
※それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。

(一部)

理解できたと思う理由	1) 今年からの新企画の卒業生のメッセージはとても良かったと思います。 2) おぼろげながら理解できたかもしれないが、学ぶべきことまで理解できたとは思わない。ただ、将来や目標を考えるきっかけになったと思います。 3) それぞれの立場でこれから取り組むべき具体的な内容がある程度イメージできたのではないかと思います。 4) 入学してから約3週間経っており、それぞれの学部でガイダンスや導入講義、さらには医療人マインドも始まっていることから、各学部のイメージを持ちながら議論に臨めていたのではと思います。それゆえ、三学部の学生同士で議論することで自身の学部のことも客観的に考えられる機会にもなったのではと思います。
課題となる理由	1) それぞれの学部で学ぶことまでは理解できていないと思う。 2) グループワークの際、各学部の専門性を踏まえた議論はあまりなされていなかったため。

5. 学生は、良き医療人となるために必要なことが理解できたと思いますか。

82 件の回答



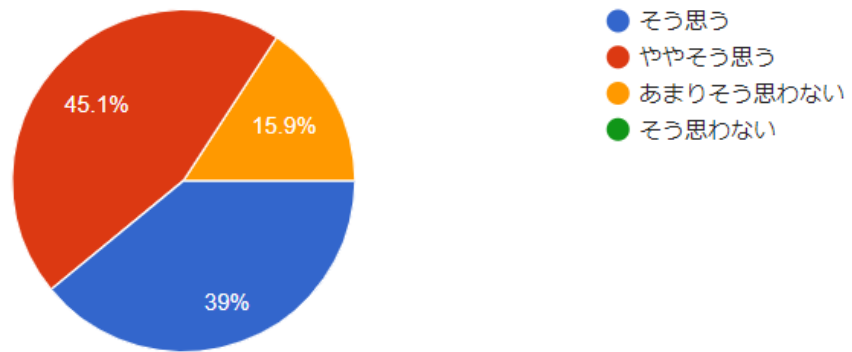
※それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。

(一部)

理解できたと思う理由	1) 個人・グループワーク、全体の発表・意見交換を通して、理解できたと思います 2) テーマに沿ってグループ内で議論したことに加え、優れた発表も聴講したりすることで、「良き医療人」を考える貴重な機会にはなったものと思います。 3) 消化できたかは分かりませんが、少なくとも考え始める切っ掛けにはなったのでは 4) 今回は理解というよりもイメージを持ったという段階ではないでしょうか？これを持つことが大事で、このイメージを大学生活の中でどんどん具現化してくれればと思います。
課題となる理由	1) 専門教育が始まってからでないと実感がないのでは？ 2) 2日目の発表を聞いた後などに、出来上がったマンガラートを再度ブラッシュアップする時間をとるなどのすると、よき医療人となるために必要なこと、を再度意識してくれるのではないかと思います。

6. 学生は、多職種連携の理解を深めることができましたか。

82 件の回答



※それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。

(一部)

できたと思う理由	1) ほとんどのマンガラートに、多職種連携に関連する語句が見られたから 2) 各職種としての連携の理解はこれからと思いますが、一つの共同作業を通して連携の大切さを感じたのではないのでしょうか。
課題となる理由	1) それぞれの職種が果たす役割についてまだ十分に見えていないと感じました。 2) この研修が他職種連携の理解を深めるというのは少々言い過ぎである

7. 3 学部合同で行ったことについての感想や、その他運営全般含めてご意見があればお願いします。

※それぞれを選んだ理由についてお聞かせください。

(一部)

よかった と思う理 由	1) 3 学部合同での開催については、大学としての一体感を醸成していく上でとても有意義なものだったと思いました。最初は少し不備があったものの、オンラインでの運営全般については非常に良かったと思います。ディスカッション、講演との時間的バランスについても丁度よいと感じました。 2) コロナに関係なく、Zoom によるこのような研修はあっても良いと思う。中途半端な宿泊を伴う研修の方が今の学生には敬遠されるのではないかと。1 回生だけでなく、他の学年でも機会があれば行えば良い。上級生になれば、多職種連携を意識する機会になるかと思う。 3) より大規模でシステミックな試みを低コストででき、600 人以上の学生の表情の変化も観れたことは新鮮で web ならではの体験であったと思われ、これはこれでインパクトがあった。運営は本当に大変であったと思うが、非常にすばらしかったと思う。大変な工夫や労力、学生に対する思いが伝わってきました。
課題とな る理由	1) グループに分かれた時に、画面共有の許可が下りていなかったため自己紹介の時にファイルを利用できなかった点は来年改善して欲しい。 2) オンラインで行うのであれば、期間を 1 日にするとか短縮した方がよい。 3) ジャムボードの URL が事前に配布されていなかった（と思うのですが勘違いでしょうか）。Zoom ブレイクアウトルームに移った際、ファイル共有が許可されておらず自己紹介スライドを使えなかった。グループワークでのチューターの役割が結局よく分からなかった。説明会資料を見てもブレイクアウトルームでチューターが何をするのか、具体的なことや進行の手順が書かれていないので明確に書いて欲しい。 4) 要望として、グループ活動がタイムアップになってしまい、メンバーが最後の「お疲れ様でした」ができておりません。学生にとっては少し後味が悪いような気がします。どこかのタイミング（昼休憩中など）でブレイクアウトルームで交流できる機会を設けていただくと有難いと感じました。 5) ビデオ画像でバーチャル背景をぼかす設定では、個人ワークがボケてしまうことの説明。 6) Google Jamboard に関して ・ URL を、チャット機能を使ってメンバー全員に知らせる方法の説明 ・ PDF ファイルのパスワードの提供方法の説明 ・ Jamboard の画面は、ZOOM での画面共有では無い事の説明 ・ Jamboard は、参加メンバー全員が操作できることの説明 ・ Jamboard は随時保存されているとの説明はあったが、どのように終了していいかの説明 7) 最後、投票する際に全て見るのが数が多かったです。 8) 今回の研修のフィードバックが、何らかの資料として学生やチューター教員に配布される予定はあるのでしょうか？ 9) グループワークの際、教員ではなく、上の学年の学生にサポートとして参加してもらうことで、よりリラックスした雰囲気の中で課題に取り組めると思いました。また、学生生活についての話もすることで縦の繋がりが生まれると思うため、今後の運営方法の選択肢の一つとして検討していただきたいです。

今後に向けて

2022 年度は、システム業者のサポートの元、2 年目の WEB 研修を終了することができました。小さなトラブルはありましたが、新入生合同研修委員会、教職員、新入生が一丸となり、進行することができました。学生・教員アンケートからは、概ねよい評価を得ることができ、本研修の目的を達成することができました。また、本学で推進しているデジタルトランスフォーメーション（Digital transformation, DX）に本研修が果たす役割について、チューター教員からは「コロナに関係なく、Zoom によるこのような研修はあっても良いと思う」「より大規模でシステミックな試みを低コストででき、600 人以上の学生の表情の変化も観れたことは新鮮で web ならではの体験であった」という声も聞かれ、本研修のさらなる発展を予感するような評価も得ることができました。

今後に向けては、以下の 3 点の検討を行っていきたいと思います。

1. 実施形態について

感染状況やワクチン接種の状況など不確定要素が多い状況です。早い段階で実施形態を確定させて、準備に時間をかける方が得策であることから、以下の 3 案を提案いたします。

- ① 本年度同様、全面遠隔で実施する
- ② 遠隔と対面のハイブリッドで実施する
- ③ 対面で実施する（合宿あるいは 3 学部の教室を使用した対面が考えられる）

2. 実施時期について

本年度同様であれば、4 月 3 週目の木・金となります。

- ① 本年度同様、4 月に実施する（2023 年 4 月 20 日（木）・21 日（金））
- ② 別日程で検討する（授業日程の調整が必要）

3. アンケート結果から、次年度に向けた改善点等

- 1) テーマや目的、プログラムについて
 - ・ 本年度と同様の内容で問題がないか、変更の必要性等についてご検討をいただければと思います。
- 2) 講演内容について
 - ・ 医学系、薬学系講演共に学生からは好評であったと感じられます。次年度の講演内容についてご検討いただきたいと思います。
- 3) 準備について
 - ・ 2021 年 12 月の第 1 回新入生合同研修委員会より本格的な準備を開始しました。準備スケジュールとしては問題なかったと思います。
- 4) 運営
 - ・ 次年度以降は、今年度の反省を PDCA サイクルのもと、3 学部教員・職員および在学生とともに周到に準備して大阪医科薬科大学の新しい歓迎行事として認知・定着されるように、一層、磨きをかけたいと考えております。

最後になりましたが、本研修を開催するにあたりご支援ご協力いただきました、新入生、在学生、卒業生、チューター教員、教職員、システム業者の皆様に深謝いたします。